

(別紙様式3)

令和7年度あいちラーニング推進事業研究報告書【主管校】

学校番号 034
学校名 愛知県立旭野高等学校
校長氏名 岡島 正純

研究責任者職・氏名	教頭・南里 謙介	事務担当者職・氏名	主事・寺西 尚久
研究テーマ	探究的な学習の礎となる「主体的に学習に取り組む態度」の評価研究		
本年度の研究目標	(1)「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の模索 (2)「主体的・対話的で深い学び」を推進する授業実践		
研究の実施内容			
実施月日	内 容		備 考 (対象生徒等)
令和7年 6月25日	○第1回 あいちラーニング推進事業 尾東地区連絡協議会 於：本校 ・重点校3校よりテーマ及び取組概要・研究計画等の確認 ○あいちラーニング推進事業に係る校内研修 ・6/23 「指導と評価の一体化」を図る授業マネジメントの活用 講師：愛知県総合教育センター学校支援研究課 原田拳志、稲山紀彰 11/21 あいちラーニング推進事業の二年間の活動報告、今後の学校の在り方について 1/8 ICT支援員による生成AI利用のための研修		本校・重点校の 該当教員 本校の希望職員
8月19日	○あいちラーニング推進事業に係る講演会 於：本校 ・「教科における探究的な学びと教科横断・文理融合」 東京学芸大学大学院教育学研究科 西村圭一 教授		本校・重点校の 希望職員
10月24日	○公開授業及び研究協議会 於：本校 ・研究目的：探究学習の礎となる「主体的に学習に取り組む態度」の評価研究 ・助言者：愛知県教育委員会高等学校教育課教科・定通指導グループ 武田 尚士 主査 愛知県総合教育センター子ども支援課 水野 司麻 研究指導主事 愛知県立春日井南高等学校 宇佐美 裕大 教頭 ・国語・英語・地歴公民科の公開授業及び研究協議会の実施		本校・重点校の 該当教員

	○あいちラーニング推進事業に係る重点校の公開授業及び研究協議会 ・11/14 愛知県立春日井高等学校、愛知県立春日井工科高等学校 ・12/05 愛知県立春日井泉高等学校	本校・重点校の 該当教員
11月19日	○あいちラーニング推進事業研究成果合同発表会 於：愛知県総合教育センター ・全体会 ・各研究主管校の発表と質疑応答 ・研究協議と情報交換	主管校の該当教員
11月20日	○第2回 あいちラーニング推進事業 尾東地区連絡協議会 於：本校 ・重点校3校よりこれまでの取組・研究状況等の報告と確認	本校・重点校の 該当教員
1月16日	○あいちラーニング推進事業に係る先進校訪問 於：横浜創英高校 ・午前「合科型探究授業」「4Cコラボレーションウィークについて」 午後：各分科会と全体講演	本校の該当教員
3月11日	○愛知県立旭丘高等学校SSH成果発表会及び第2学年課題研究中間発表会への参加	本校の該当教員
3月13日	○あいちラーニング推進事業の重点校報告書集約	重点校の該当教員
3月23日	○あいちラーニング推進事業の主管校報告書提出（Web ページに掲載）	本校の該当教員

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

昨年度に引き続き、本年度もあいちラーニング推進事業の主管校指定を受けた。そのことにより、本校では主体的・対話的な深い学びに繋がる授業実践について真摯に検討することができた。この二年間で、国語・地歴公民・数学・理科・英語・保健体育の研究授業を行い、昨年度の課題となっていた「主体的に学習に取り組む態度」の評価研究を目指して、深い学びの授業実践を試みた。

また、今年度は校内研修を3回実施することができた。校内研修①では、「指導と評価の一体化」を図る授業マネジメントの活用について、総合教育センターの講師を招いて行った。校内研修②では、あいちラーニング推進事業の二年間の活動報告を行い、今後の本校の授業の在り方について協議する機会を設けた。校内研修③では、ICT支援員による生成AI利用のための研修を行うことができた。

この推進事業を進めていく中で、ただ単にICT利用を目的とするのではなく、授業の一つの手段として、より効果的な活用方法を教員間で検討することができたことはとても有意義であった。学校全体として、teams やロイロノートやデジタル採点等の利用が大いに進んだ。アンケート調査・オンライン研修・土曜学習会の講座選択・模試の自己採点など学校の教育現場の様々な場面でICTが利活用されるようになってきた。ポケットWi-Fi を利用した遠隔授業も実施できるようになった。

さらに、各重点校の連絡協議に参加したり先進校を訪問したりすることにより、重点校の課題や各校のICT利用状況、先進的な取組を知ることができた。一方で、本校の取組や課題についても発信することができた。あいちラーニング推進事業校内委員会である教科主任会で、各校の情報を共有することによって、深い学びに繋がる授業実践やより効果的なICT利用について検討することができた。

この二年間のあいちラーニング推進事業の研究を生かして、来年度に向けて探究的な学習の中心となる「総合的な探究の時間」の見直しを進めている。学校全体としてより効果的な「総合的な探究の時間」の在り方を模索していきたい。

※ 本研究報告書は、令和8年3月23日までに県教育委員会に提出する。